

平成30年度 東住吉区区政会議

資料1

子育て教育部会報告

ビジョンの認識共有

「子どもが輝き、
みんなが幸せなまち」

「子どもが輝く取り組みに、大人が関わる
ことでみんなが幸せになる」

子育ては「親だけではなく、社会全体が関わること」が大事！

平成30年10月24日(水) 302・303会議室

1. 平成30年度 子育て教育部会 活動記録

1) 委員

部会長:藤本 佳孝

榊 徳子・筒井 由美子・中津功一朗・波多野 華代
・平田 睦・松田 安弘・翠 紀雄・森川 裕子

2) 開催記録

- 第1回 平成30年7月23日(月)
於:東住吉区役所 3階会議室
- 第2回 平成30年9月27日(木)
於:東住吉区役所 3階会議室

提案されたテーマ

『地域コミュニティと学校の連携を
どう作っていくか』をベースに！

7月・9月

子育て教育部会

モデルケースとなる学校を選定
現地視察・意見交換の実施

現地視察 各テーマでの意見交換



子育て教育部会の取組

モデルケースとなる学校等を選定し、地域との連携体制を構築する方法を議論していく。東住吉区、もしくはその地域、学校の強みや弱みを検証しながら『住み続けたいと思うまち』を目指す。

中野中元気アップヒアリング

白鷺中元気アップヒアリング

子育て応援ナビ意見交換

○モデルとなる地域を検討

中野中学校



○調査事項

調査1

中野中学校

元気アップヒアリング(8月10日実施)

調査2

白鷺中学校

元気アップヒアリング(8月7日実施)

●元気アップ活動などに力を入れており、学習面サポート、土曜授業など活発な校区だという意見から、調査対象のモデルとして、「中野中学校」を選定し現地視察を行い、校長先生とコーディネーターを交え意見交換を実施。

●松田委員によるヒアリング。学校ごとにニーズや課題が異なっていることもあり、青少年指導員の活動を通じて関わりの深い白鷺中学校へのヒアリングを実施。⇒元気アップコーディネーター 永田吉隆さん・首藤美幸さんへのヒアリング。

意見交換

子育て応援ナビ
意見交換(9月12日実施)

●部会での議論で挙げた課題・提案について、子育て応援ナビを立ち上げた経緯等の共有した上で、実際にサイトを確認し、情報の検索等の操作体験し、具体的な改善可能な点や周知方法等についての意見交換を実施。

子育て教育部会 現地視察(ヒアリング)について

調査1

平成30年8月10日(金)
中野中学校 元気アップヒアリング

調査2

平成30年8月7日(火)
白鷺中学校 元気アップヒアリング

概要

区政会議(子育て教育部会)の議論の中で、『地域コミュニティと学校の連携をどのように作っていくか』が部会で検討していく議題として提案された。「元気アップ」の活動が地域と学校を繋げるきっかけになるのではないかと、元気アップの取組の現状と課題を確認していくことを調査事項として決定した。

学校元気アップ事業

全中学校区において、地域の方々の協力を得ながら、地域社会全体で子どもを育てる仕組みとして「学校元気アップ地域本部」を設置し、生徒の生活習慣の確立や学力向上などの課題解消に向け、各学校のニーズに応じた取組を行う。

○活動内容

- 定期テスト前の放課後や夏休み等の学習会
- 読書活動や学校図書館の整備・閉館時間の拡大
- 緑化活動等の環境整備
- 部活動支援 など

ヒアリングと意見交換で挙げた課題等

- 元気アップ(学校・PTAのお助け隊)の取組みの認知度が低い ⇒見える化(発信)
- 地域コーディネーターの負担軽減や分担化・次の担い手の育成
- 学びサポーター・ボランティアの獲得にかかる課題(予算・周知・採用システム)
- 地域実情に応じた学校教員と地域の連携のあり方を模索(中野中と白鷺中でも異なる)
- 地域コーディネーター 繋ぎ役として貴重な人材、働きを**知ってもらう場**が必要
→取組・課題・連携の「見える化」(既に会合は年2回定例化)
⇒区HPでリンク先集を発信し、お互いに知り、取り入れられることを発見できれば。
学校校長・教員との連携の深化・継続性の確保も必要。
- 元気アップとはぐくみネットの課題や取組方向の「見える化」「共有化」、「小中セットでの元気アップ」構築
(小・中の学校間連携会議は既に開催)
- 「もっと**地域資源**を有効に活用して青少年育成に貢献できる事業に発展させる」



白鷺中学校・中野中学校の現状を見据えて 浮かび上がった課題等と解決の視点

学校の会議増・教員負担増、生徒数減・学級数減で教員数も減、子どもに対して、子ども一人一人の教育的ニーズにあった適切な教育的支援を！

- ⇒ 会議の重複整理やIT活用による効率化も進めつつも、教員のみでなく学力保障サポートが求められている。また学力向上だけでなく人としての成長支援の視点も。
- ⇒ 「元気アップ」「はぐくみネット」のような学校を支援する取組の重要性が増大
地域が「生徒達が学習できる土壌づくり」として学校のサポートを行える仕組みづくりが重要。
ボランティアの募集、参加者の負担軽減など、個人の力量だけに頼らないものにしていく仕組みづくりも必要。

・**ボランティアの継続は非常に難しい→Win-Winの関係が成立するための要件！**
(※城南の例では調理を学ぶ学科の生徒と料理を学びたい中学生との間にWIN-WINの関係性が成立している。)

・**専門職を配置するなど予算措置が必要ではないか？**
→事業を継続するための予算ではなく発展させるための役割が前提となる。

・**情報発信は「言葉」を発信するのではなく「物語」として発信し興味を引く構成に！**

まとめ (テーマ)

①地域＝行政機関、町会、企業・商店街、団体など、より広く地域資源を活かし、地域に根差した青少年育成に貢献すべき！

②学校＝教職員、生徒、PTA、卒業生、小学校、教育委員会などと課題の共有と協力関係の強化を！

○テーマの実現に必要なこと、今後取り組んでいくこと

●WIN-WINの関係

- 子育てだけではなく、子育てを通じて親も学ぶことの視点も！
- 地域全体としても、子育てを通じて地域が育つというようなメリットを見出す。
- 企業においても、子育ての視点をもつことで、出来ることの検討や気づきに繋げていく

●情報発信について

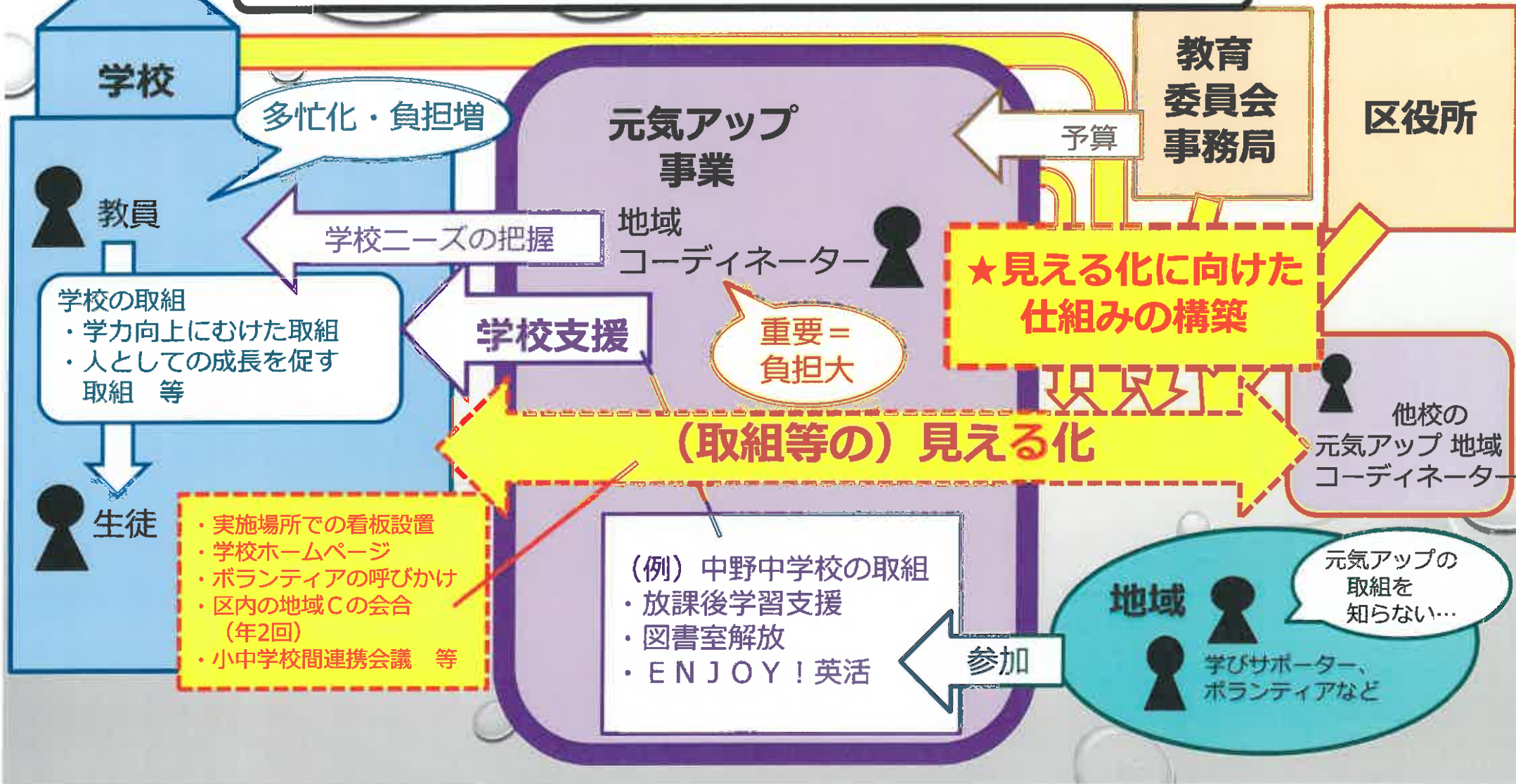
- 元気アップにおける情報発信については、見える化していけるような仕組みを作る！
- 言葉だけではなく、ストーリーの見える発信を！

●生徒側の要望や希望の聞き取りについても必要

●中野中学校・白鷺中学校以外の現状の把握

●地域の意見の把握(地域が何を望み、元気アップ事業と関わることでどのようなメリットを見出すことが出来るか)

学校元気アップ事業にかかる今後のイメージ



『子育て応援ナビ意見交換』(平成30年9月12日)

概要

区政会議(子育て教育部会)の議論の中で、子育て応援ナビについて、たくさんの情報が掲載されているが、改善可能な課題もあるのではないかと議論の一つとなった。

部会での議論で挙げた課題・提案について、子育て応援ナビを立ち上げた経緯等の共有した上で、実際にサイトを確認し、情報の検索等の操作体験し、具体的な改善可能な点や周知方法等についての意見交換を実施した。

経過

創設された「東住吉タウンデザインアドバイザー会議」にて、コミュニケーションツール＝「**区民が子育てについて調べたいときの入り口**」を作ることとなった。



- ・なぜ子育て層向け？→多くの区民は区役所に関わる用事がなければ来庁もしない、取組に興味ももたない。
区が何をやっているのか？何をしてくれるのか知らない・気づかないことが多い。
- ⇒子育てに入るタイミング＝「**区役所(の取組)との初めての直接接触のタイミング**」となる。
- ・行政情報だけでは面白くない。⇒「わくわくボックス」設置

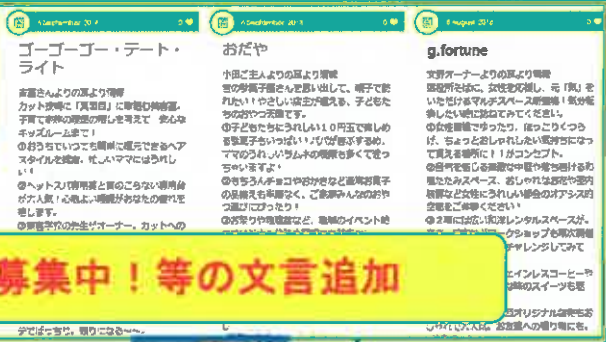
意見交換(提案)

周知

- 健診時(1歳6ヶ月児健康診査)・転入パックの場面をとらえて配布
- ★ 母子手帳を交付する際にお渡ししてはどうか？
- 「子育てにうれしいお店情報」について
- ★ 「情報募集中！」等の文言を入れてはどうか？

サイト自体のデザイン等について

子育てにうれしいお店情報



情報募集中！等の文言追加



子育てにうれしいお店情報のページは「子育て」×「〇〇」の形で紹介！

- 新着情報の表示(・・・定期的に更新されているイメージも必要。)
- ★ Twitterの更新により新着をお知らせ
- 必要な情報を探すために見る人が多いのであれば必ずしも新着情報が必要ではないのではないか？
- ★ 辞書的につかってもらっているのかも？活用しているユーザーの声やアクセス数の検証は必要！
- 子育て層以外の人には興味がないため見ても覚えてもらえない
- ★ 例えば「子育て」×「〇〇(何か、企業とか社会全体)」など子育て層以外の人たちも巻き込んで一般の人たちに知ってもらえる仕掛けはどうか？
- 検索ボックスやメニュータブの変更
- ★ 予算的に可能か？またそのニーズがあるのか？を議論のうえ検証するかを決定。